

女性活躍推進と生産性やイノベーションとの関係

山口 晃

目 次

1. はじめに
2. 生産性・イノベーションと女性活躍をめぐる国内および国際的情勢
3. 生産性と女性活躍の分析における留意点
4. わが国における生産性・イノベーションと女性活躍の分析
5. おわりに

わが国では、世界経済フォーラムにみるジェンダー・ギャップ指数において、他の先進国に比べ大きく劣後している。女性活躍（分析では女性役員比率）と労働生産性・イノベーションがどのように関わり合うかを本稿では調べており、特に労働生産性については、因果の意味での関係を調べている。分析の結果、女性活躍は労働生産性を有意に引き上げ、またプロセス・イノベーションと相関していることが分かった。

1. はじめに

労働生産性やイノベーションと女性活躍との間にはどのような関係があるか、本稿では論じている。また特に労働生産性については、相関ではなく因果の意味で、女性活躍が推進されると労働生産性が上昇するののかについても論じている。本稿では、女性活躍が推進されると労働生産性が上昇し（ビジネス・プロセス・）イノベーションが推進されることを確認している。因果の意味というのは、女性活躍が推進されると生産性・イノベーションが向上するという経路（パス）もあるかも

しれないが、他方でそもそも女性活躍を推進できるような企業は生産性の高い（良質な）企業であるという可能性があるから、調べる必要のある問題である。こうした問題は、計量経済学の世界ではReverse Causalityとって「逆の因果」ともいう。逆の因果の問題が起きている際に、女性活躍と生産性・イノベーションとの関係について、相関でものをいうことはできたとしても、それでは根本的な社会の構造を明らかにしたことはならず、おそらく本誌の読者に多いであろう投資家サイドにとっても、予測が外れた等の際の説明責任を果たす上で因果関係を把握しておくことは重



山口 晃（やまぐち あきら）

独立行政法人経済産業研究所 政策分析専門官（政策エコノミスト）。2013年京都大学経済学部卒業。2015年一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了。2023年経済学博士（一橋大学）。大和総研、文部科学省科学技術・学術政策研究所を経て、2023年4月より現職。